

「足袋のまち行田」活性化推進事業

—No.5 行田市—

【事業の目的】

地場産品「行田足袋」のブランド化の確立・市場の拡大、ひいては地域経済の活性化を図ります。

【事業の内容】

販路拡大・新商品開発、行田足袋 PR 動画作成、「足袋と足の形成について」の研究、足袋蔵めぐり、足袋健康講座、ランニング足袋講習会、秩父鉄道記念足袋型入場券発行、足袋フィッター養成事業、「足袋の日」PR アプリ作成、子供向け足袋イベント、足袋コレ（足袋及び足袋の履きこなしのコンテスト）などを実施する予定です。

【事業年度】

平成 28 年度～平成 30 年度（3 年間）

【予算額(千円)】

45,600 千円（平成 28 年度～平成 30 年度）

うち 19,600 千円（平成 29 年度）

【財源】

地方創生推進交付金（国）、一般財源（市）

【事業実施に至った背景・経緯】

平成 27 年 3 月に行田市郷土博物館が所蔵している本市の足袋製造用具などが国登録有形民俗文化財に登録されたほか、平成 28 年 7 月には本市の足袋産業が舞台となった池井戸潤氏著書「陸王」が出版され、テレビドラマ化が発表されるなど、本市の足袋が再び注目を浴びてきています。

そのため、「既存の足袋産業の販路拡大と新商品の開発」の支援を行い、足袋産業の経済活性化と新たな雇用の創出を図ります。

【事業のPRポイント】

- 国内シェアトップの行田足袋の魅力を発信します。
- 「着物に足袋」以外の履きこなしを紹介します。
- ランニング足袋の魅力を発信します。
- 市内に点在する足袋蔵の魅力を発信します。
- 鉄剣マラソン陸王杯など陸王に絡めた事業を実施します。
- 市内の小学校で上靴の代わりに足袋を履いてもらい、身体への影響について研究します。
- 海外でのシェアも目指し販路拡大を図ります。

【事業実績・成果・今後の展開】

〈平成 28 年度〉

新商品開発に伴う金型製作や市場調査、宣伝広告など商品開発及び販路拡大に伴う支援を行いました。

〈今後の展開〉

様々なイベントや媒体を通じ、行田足袋の魅力を発信していきます。

京都織物組合や日本足袋工業会との連携を密にし、更なる行田足袋の魅力を発信していきます。

新たな金型や刺繍機を導入し、新商品開発を目指します。

インターネット販売に新規参入し、販路の拡大を図ります。

小学生の時から足袋に慣れ親しんでもらい、足袋を履く生活を浸透させていきます。

【参考資料】

「足袋のまち行田」活性化プロジェクト

〔 連絡先 〕

商工観光課 産業振興担当

048 (556) 1111 (内線383・384)

「足袋のまち行田」活性化プロジェクト

事業期間
平成28年～平成30年
財源
地方創生推進交付金活用
市1/2・国1/2

「足袋のまち行田」活性化推進協議会 (平成28年10月26日発足)

<構成メンバー>市、行田商工会議所、足袋製造事業者、
NPO法人ぎょうだ足袋蔵ネットワーク、市内金融機関

予算 H28: 5,000(単位:千円)
H29: 19,600
H30: 21,000
計 45,600

商品開発・販路拡大

イサミコーポ
レーション

きねや足袋

武蔵野ユニ
フォーム



市内金融機関

足袋のまち活性化



相乗効果

中京大学連携

- モデル小学校への足袋導入
- 足袋の効果実証研究

NPO足袋蔵ネットワーク連携

- 市内足袋蔵めぐり

秩父鉄道連携

- 行田市駅記念足袋型入場券発行
- 市内足袋関連施設での記念品贈呈

市連携

- 行田足袋PR動画の作成(英語字幕入り)
- 市公式HP等へ掲載
- 足袋ランニング健康講座
- 足袋コレへの開催

市

インバウンド
文化財
観光
教育

行田足袋PR動画(英語字幕入り)の市公式HPへの掲載
行田足袋産業国登録有形民俗文化財に係る資料整備(平成28年度～30年度)
足袋産業の日本遺産登録申請(H29)
小学校3年生の社会科授業への足袋学習導入(マイ足袋作成等の体験学習含む)

行田商工会議所

- 「行田足袋」の商標登録(H29.4月末)
- 時代祭「ベスト足袋ニストコンテスト」